

## 豆ちゃんカエル 赤塚トンボ池から大量に上陸

3月に赤塚トンボ池にカエル達が来て卵を産みます。しばらくするとその卵の一部は消えてなくなります。残った卵からオタマジャクシがかえり、黒い塊になって群れています。そこへザリガニがアタックします。そして間もなくオタマジャクシはいなくなる…毎年こんなことの繰り返しでした。オタマジャクシの天敵は、二本足の動物(数も多く手強い)、ザリガニ、コイだと思っていました。でもコイはオタマジャクシを食べないそうです。

3月10日ごろ、これまでにない数のカエルが集まってきました。「数えたら20匹までいた」という報告もあります。くっくと小さく鳴きながら、水の中をばしゃばしゃと泳ぎ、なんと大きなコイの頭にしがみつきのもいて、笑ってしまいました。後で聞いたら産卵期のオスは動くものはすべてメスと思ってしがみつきのだそうです。産卵は雨が降った23日の夜だっただろうという話でした。3月26日、卵塊を確認。集まったカエルの数の割には卵塊が少なく、3つ位だったか。もしかして卵は2本足の動物に略奪されたのかもしれませんが。

4月6日、卵を包む寒天のようなものが溶けて、黒いつぶつぶが池の底に沈んでいました。よく見るとそのつぶつぶがピクンと動くのです。オタマジャクシの始まりでした。

今年のおタマジャクシの生存率は高く、生まれて1ヶ月経った5月10日、かなりの数が生き残り、手足がついています。そして5月12日には1cmほどの豆カエルが10匹ほどうろうろしていました。

このとき池はかなり干上がっていました。干上がった状態のほうが水草の生育がよいため、3月6日梅まつり直後から湧水の流入をストップし、そのままにしていたからです。水が減って生き物がかわいそうだとか、泥が出てきて汚い、という声も聞きました。

ところがオタマジャクシは池が干上がったために生き延びられたようです。今年は岸近くには水はなく、オタマジャクシは岸から離れた、今にも干上がりそうな浅いところに集まって



いました。干上がったといってもずぶずぶで子供達も近づけません。ザリガニは、水面から外に身をさらされるため、オタマジャクシのいるところに寄ってきません。

というわけで、オタマジャクシが、無事にカエルになれる条件というものが少しわかったような気がしました。

毎日池に立ち寄ってオタマジャクシを見ていくという人もいました。干上がって死ぬんじゃないか、と心配する人もいました。ところが、手足の生えたオタマジャクシを水の中に移しても、干上がったところに戻ってきました。手足が使えるので、水がなくても大丈夫なのですね。そして…このニュースが出るころもうオタマジャクシはいないでしょう。カエルになると、生活の場所は陸上になるので、草むらから飛び出してくるかもしれません。「めでたし、めでたし」でしょうか。野生生物の世界、カエルになってからも多難な人生が待っているのでしょうかね。(坂本郁子)

#### 手足が生えてきたオタマジャクシ



#### 板橋区のカエル現況

板橋区で現在土着が確認されているカエルは以下の4種。

**アズマヒキガエル**: 市街地にも生息しほぼ区内全域。幼生期が短いので劣悪な水辺環境にも耐えられる。

**ウシガエル**: 荒川河川敷のみに生息。過去には赤塚ため池や徳丸たんぼに多数生息。外来種だが、幼生期が長く安定した広い水辺環境に棲む。

**アマガエル**: 荒川河川敷のみに少数生息。人為的に放された固体がたまに市街地でも見  
つかる。1960年代前半までは区内各地に生息していた。

**トウキョウダルマガエル**: 荒川河川敷のみに少数生息。徳丸ヶ原(高島平)が一面の水田  
であった頃は多数生息していた。本種も減少により蛙食いのヤマカガシが絶滅？